

第2回仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）検討委員会 会議録

- 1 開催日 平成28年8月3日（水）
- 2 開会及び
閉会の時刻 午後15時00分開会 午後17時00分閉会
- 3 開催場所 仙台市役所教育局第1会議室
- 4 出席委員氏名 遠藤仁委員，加茂光孝委員，今野弘子委員，今野広元委員，
坂田邦子委員，佐藤のりみ委員，澤田直美委員，中川美佳委員
- 5 事務局職員 千石生涯学習部長，渋谷児童クラブ事業推進室長，瀧澤総務課長，
猪俣教育指導課長，奥山生涯学習課長，高橋市民図書館副館長，
西山生涯学習課企画係長，山田市民図書館奉仕整理係長，
総務課企画調整係 佐藤主任，生涯学習課企画係 横内主任
- 6 会議の次第
 - (1) 開会
 - (2) 挨拶 遠藤委員長
 - (3) 協議事項
 - ①子ども読書活動推進計画（第三次）骨子案について
 - ②その他
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 7 会議の概要
 - (1) 協議事項
 - ①子ども読書活動推進計画（第三次）骨子案について
 - 事務局より資料に基づき，委員からの意見，アンケート調査について説明がなされた。以下は委員から述べられた意見。
 - ・中学校は、朝読書の時間が減りつつあり、どう歯止めをかけていくかが課題。
 - ・読書活動推進に関して有効な取組みをしている学校をモデル校として設定し、図書費を重点的に配分する等の支援をすることで、より積極的な取組みができるのではないか。
 - ・読書の意義や楽しさを児童生徒に教える大人の存在が大切。司書教諭の役割が非常に重要。
 - ・国語科以外も含めて、学校図書館の活用や本を読むことの大切さを教えることが、読書の導入のきっかけにつながる。
 - 事務局より資料に基づき，子ども読書活動推進計画（第三次）骨子案について説明がなされた。以下は委員から述べられた意見。
 - ・アクティブラーニングは、主体的に学び、主体的に生きる術を本との出会いから学ぶという面もあるので、目標には、自ら生きる力を育むなどという言葉が入るのが

いいのでは。

- ・目標として、自主的な読書活動という言葉もいいのではないか。国語の発展授業や朝読書で本を読んでも、自主的に読書をしていない子どもは多い。
- ・読書活動への取組みは継続維持していくことが、当面の目標として大事。成果指標についても、現状を踏まえ、維持していくような方向で整理するのがいいのでは。読書の質を高めるような工夫をしていくことは必要。
- ・司書教諭を後押しするような学校ぐるみの体制や周囲の理解が必要。学校ぐるみで読書推進することによって、不読率が下がるなど効果がある。
- ・対子どもに対する読書支援はできていると感じるが、家庭での取組みにつながるような大人も巻き込む施策があるといいのではないか。
- ・家庭では選書が難しい状況がある。図書館などは本の紹介等をしているが、それをもっと効果的に情報発信し、定着させていくことが大切。
- ・子どもに対して、読書の段階に応じた指導ができれば、学年が高くなるほど読書をしなくなることの対策になるのではないか。
- ・子どもに本を読んであげる視点だけでなく、大人が読書している姿を見せることも子どもの読書のきっかけとなる。
- ・小学校では読書をするが、中学校で雰囲気が変わり読書をしなくなる場合もある。小学校と中学校で連携し、読書をする環境をつくっていくのが大切なのではないか。
- ・電子書籍については、まだどのような影響を及ぼすのかについて分からない部分が多く、導入を急ぐ必要はないと思う。ただ、スマホやタブレットがこれからも普及していく中で、検討は必要。

次回の会議に向けて、委員は第三次計画の目標等に関し事前に事務局へ意見を寄せることとなった。

8 その他 特になし